

ファイナル風

(現場)からの

宮田守男

2月中旬、行政相談業務のため訪れた白馬村役場。玄関ロビーでロビーコンサートが行われていた。報道は新型コロナウイルス一辺

倒、不安な毎日を少しでも明るく過ごしたいと多くの皆さんが会場を埋め尽くす。出演したヴォーカル・アンサンブル・Feuの歌声は、「焚き火」を彷彿させ、音楽を通して温かなひとときを感じさせてくれた。

報道では「国内感染か、武漢滞在歴なし」、「新型肺炎、患者は中国発表の3〜4倍の可能性も」と報道されているが、アメリカのインフルエンザの情報も少ない。1月中旬にアメリカ疾病予防管理センターはインフルエンザ感染が拡大

しており、感染者は1500万人、入院患者が14万人、死者は8200人と発表。インフルエンザの危険性に改めて目を向けるべきと注意警告した。全世界的にも、季節性インフルエンザは毎年300

一方的な情報だけでなく、冷静に情報分析する事も大切だ

昔から「二回寝られ、二回嫌われ、三回惚れられ、四回は風邪くしゃみは誰かの仕事とされた。だがギリシャでは結婚式の朝、花嫁の近くでネコがくしゃみをするると二生幸せになれる」とネコのくしゃみは女神の祝福

万人から500万人に感染して、最大65万人の死者をたすとの情報もある。コロナウイルスにはかなり偏重して騒ぎ立てず、すこし冷静になってはどうだろうか。

いに神仏の影を認め合う「さま」を意味していると言われている。思想家モンテーニュの言葉「記憶は我々の選ぶものを見せてくれるに、自分の好きなものを見せてくれる」。見るべき過去を見る事が大切と問いた。解剖学者・養老孟司さんの著書「バカの壁」で「人間の脳は自分の知りたくない情報を遮断し脳を楽にしたがる」と一元的な思想に傾倒し、過激に感化してはいけ

か、二回寝られ、三回惚れられ、四回は風邪くしゃみは誰かの仕事とされた。だがギリシャでは結婚式の朝、花嫁の近くでネコがくしゃみをするると二生幸せになれる」とネコのくしゃみは女神の祝福



グループ名の feu はフランス語の「焚き火」。焚き火に自然と人が集まるようにと

かない行動が求められていくのだろう。2月に国際通貨基金の審査担当は、新型肺炎の感染拡大で中国との間で貿易や投資が冷え込み、訪日客数の落

ち込みで観光や小売りが打撃を受けると指摘した。今後の観光戦略を立て直しが急務だ。(NPO法人信州地域社会フォーラム会員)